



制作：名城大学薬学部 病態解析学Ⅰ・
Eプロ（中村真理子、武藤利奈、
野田幸裕）、薬品作用学（間宮隆吉）
監修：NPO J-DO

平成30年11月28日（水）一宮市立宮西小学校にて Eプロは「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」を 共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）

名城大学薬学部では出前講義として、高齢者や小学生にも「くすり」や「薬物依
推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。こうした社会活動を本年度
は名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Eプロ）の薬学生と共に行っ
ています。Eプロとは、大学が課外活動を支援する事業「Enjoy Learning プロ
ジェクト」の通称です。

一宮市立宮西小学校の山口宏一教頭および学校薬剤師の伊藤 勝先生、一宮市薬
剤師会会長 濱崎光哲先生、理事 原 明美先生のご尽力により、一宮市薬剤師会と
の共同企画として、平成30年11月28日（水）一宮市立宮西小学校にて、「く
すりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」
「薬物乱用・依存」を下記の内容にて行いました。当日は、6年生の児童103
名および保護者24名が「くすり」について学び、「色が変わる実験が楽しかった」
「もっと実験をしてみたい」と大好評でした。Eプロの活動としては、7回目と
なりました。



一宮市立宮西小学校における「くすり教室」

日時：平成30年11月28日（水）9時40分～11時00分

場所：一宮市立宮西小学校 屋内運動場

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A
方式で小学生が答える、児童参加型で行いました。学部5年の高須光平がス
ライドを使って、わかりやすく説明しました。小学生は元気よく挙手して活
発に問い掛けに答えてくれました。保護者の方も3択問題などで積極的に手
を挙げてくださった姿がとても印象的でした。

・「体験実験」

学部5年の中村真理子を使って実験の説明をする中、小学生は12グループ
（1グループ8～9名）、保護者は3グループ（1グループ6～8名）に分か
れ、内容をより理解できるように、鍋島俊隆先生（NPO J-DO 理事長）、名
城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長・Eプロ）、間宮隆吉准
教授（NPO J-DO 理事）、大学院生（病態解析学Ⅰ）と薬学生（病態解析学
Ⅰ・Eプロ 5年生5名、薬品作用学研究室・Eプロ 5年生3名、病院薬学
研究室 6名）が補助しながら、体験実験を行いました。児童はくすりが食品
などで色が変わるのを間近で体験し、驚きの声や歓声をあげていました。

<実験項目>

1. コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」をのむのはなぜ？
2. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる？
3. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうなってしまうの？
4. 「うがいぐすり」でうがいした後に、すっぱい食品を食べると
どうなってしまうの？



「乱用薬物には絶対手を出さない！」

日時：平成30年11月28日（水）11時00分～11時15分

場所：一宮市立宮西小学校 屋内運動場

内容：

「乱用薬物には絶対手を出さない！」：講義

野田幸裕教授がスライドを使用してわかりやすく以下について説明しました。

1. どのような薬がドラッグとして乱用されているか
2. 薬物乱用はどのように怖いのか
3. 乱用されている薬の正しい情報
4. 薬物乱用者の実態
5. 薬物乱用に対してみんなが出来ること

講義中具体的には、「タバコやアルコール、シンナーによって成長はどうなってしまうのだろうか？」「タバコやアルコール、シンナーの乱用で体はどうなってしまうのだろうか？」についてスライドを使って視覚的に理解を深めてもらいました。児童からは「双子でもタバコを吸うとこんなに違うんだ！」という驚きの声が聞かれ、薬物乱用の恐ろしさについてしっかりと理解できたようでした。